

● これからの活動 ●

※活動予定は変動の可能性がございます。最新の情報は人間科学研究所のホームページをご参照ください。

2025年度 お父さんのための「安心感の輪」  
子育てプログラム（オンライン開催）

第1期  
日 時：2026年1月18日（日）～3月8日（日）  
10：30～12：00  
第2期  
日 時：2026年1月29日（木）～3月26日（木）  
19：00～20：30  
企 画：北川 恵（人間科学研究所兼任研究員）

甲南アトリエ

日 時：2026年2月28日（土）13：00～15：00  
場 所：甲南大学10号館10-12 講義室  
講 師：植松琢磨氏（アーティスト）  
企 画：服部 正（人間科学研究所兼任研究員）

ワークショップ

日 時：2026年3月8日（日）13：00～15：00  
場 所：甲南大学18号館3階 講演室  
講 師：稲継三保氏（アーティスト）  
企 画：西尾千尋（人間科学研究所兼任研究員）

子どもの哲学

「喪失をめぐる哲学と心理学の対話」  
日 時：2026年3月9日（月）14：00～16：00  
場 所：甲南大学10号館10-13 講義室  
講 師：中 真生（神戸大学）  
コメンテーター：北川 恵（文学部教授）  
企 画：吉川 孝（人間科学研究所兼任研究員）

シンポジウム

「九鬼周造のマルジナリア」  
日 時：2026年3月14日（土）14：00～16：00  
場 所：甲南大学10号館10-14 講義室  
講演者：星野 太（東京大学）  
コメンテーター：小田原弘征（京都大学）  
企 画：ファヨル入江容子（人間科学研究所兼任研究員）

発行年月日：2026年2月20日

KIHS NEWS LETTER 2026

Vol. 43 発行

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 E-mail: khsadm@konan-u.ac.jp Web-site: https://www.konan-u.ac.jp/khs/

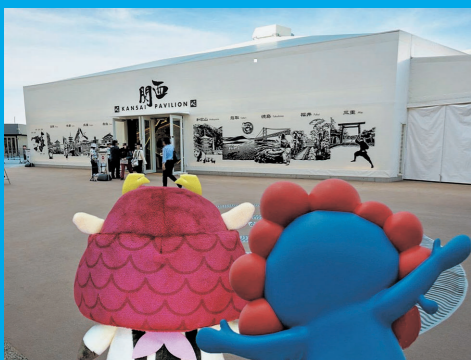


今年度のニュースレターをお届けします。  
人間科学研究所では、2020年度より継続してまいりました研究事業「Phase6：過去と未来をつなぐ～危機の乗り越えに向けて」を2025年度に完了いたしました。この中では、「子ども・子育て」に関する研究・実践「トラウマ、人生史、記憶を対象にした学際的研究」「人間科学の哲学的・思想的基盤の検討と芸術学における実践と研究」の3つを主軸に活動しました。また、同年度は、「KONAN U. VISION 2025」の完成年度でもあり、さらに、1995年の阪神・淡路大震災から30年を数える節目の年でもありました。そして、大阪・関西万博が開催され、甲南大学としての参加が実現した年でもあります。これらに纏わる意義深い事業を幅広く展開し、その全てを完遂できたことは研究所スタッフ一同、歓びに堪えません。今号では、本年度の12件の活動（開催予定の5件を除く）について、企画者（あるいは講演者）の先生にご報告いただきました。ぜひご味読ください。



編集後記

2025年度は、当人間科学研究所にとって、様々な意味で節目の年となりました。2つのプレミア・プロジェクトを完遂することができ、また、阪神・淡路大震災30年シンポジウムを開催することができました。そして、2026年度からは、「KONAN U.VISION 2030」と、「Phase7: 複雑化する社会課題に人間諸科学の研究力をもって挑み、多様な生が共栄しうる社会の実現を目指す」を、当研究所の新たな目標として掲げることとなりました。2026年度から心機一転、新境地を目指して始動いたします。今後とも当研究所の活動へのご支援、ご参加をいただけますよう宜しくお願い申し上げます。





# 活動報告

## ●2024年度の活動

**公開研究会**  
「自閉スペクトラム症をもつ子どもと父親・母親との相互作用：両親の洞察性が子どもの社会的能力に及ぼす影響」



**“Mother-Father-Child interactions in Autism: The contribution of parental insightfulness and the impact on children's social competence.”**

実施日：2025年2月15日(土) 13：30～16：30  
場所：甲南大学ネットワークキャンパス東京 (Zoom併用のハイブリッド開催)  
講師：David Oppenheim, PhD  
実施者：北川 恵  
参加者：会場20名、オンライン120名

David Oppenheim先生 (イスラエル、Haifa大学教授) が、トランジットで日本に数日滞在された機会に、交通至便な甲南大学ネットワークキャンパス東京 (NC東京) にて公開研究会を開催しました。日本乳幼児精神保健学会 (JAIMH) に共催いただき、多くの皆様にご参加いただきました。

当日はOppenheim先生から、自閉症をもつ子どもと両親の関係性について、また、両親が子どもの視点に立って物事を見る「洞察力」の重要性について研究知見に基づくご講演をいただきました。続いて、梅村比丘先生 (広島大学) が発達心理学研究の視点から、渡邊久子先生 (LIFE DEVELOPMENT CENTER 渡邊醫院) が臨床への応用の視点から指定討論くださり、参加者と意見交換を行いました。(報告：北川 恵)

## ●2025年度の活動

**公開講座**  
第16回 お父さん・お母さんのための  
子育て応援講座



実施日：2025年5月22日(木) 13：00～13：40  
オンデマンド配信期間：2025年6月2日(月)～2025年6月30日(月)  
講師：北川 恵 (文学部教授／公認心理師・臨床心理士)  
スタッフ：岩本沙耶佳 (人間科学研究所客員研究員／公認心理師・臨床心理士) 学生9名、託児担当者2名  
参加者：53名  
内訳：対面27名(親7名、子ども7名(託児利用6名)、学生13名)、オンデマンド配信26名(一般9名、学生17名)

子どもは、お父さん・お母さんが「安心基地」になってくれることで、不安なときは信頼できる人を頼りながら、自分でいろいろな挑戦をすることができる、というアタッチメントの視点をお伝えしました。参加者からは、「子どもの気持ちを受けとめることの大切さを学んだ」「不安を感じるが多い子育ての中で、いろんなヒントをもらうことができた」といった感想をいただきました。(報告：北川恵・岩本沙耶佳)

**子育てライブラリー2025**  
第1回 学生による手遊び・絵本読み聞かせ

実施日：2025年5月22日(木) 12：45～13：00  
実施者：岩本沙耶佳、北川 恵、学生8名  
参加者：14名(親7名、子ども7名)

「子育て応援講座」と同日に開催し、学生が手遊びや絵本の読み聞かせをしました。参加者からは、「託児前に、子どもの緊張がほぐれてよかった」「楽しかった」といった感想をいただきました。(報告：岩本沙耶佳・北川 恵)

**子育てライブラリー2025**  
第2回 なつまつり



実施日：2025年7月5日(土) 10：30～12：00  
実施者：岩本沙耶佳、北川 恵、学生6名、託児担当者3名  
参加者：78名(親39名、子ども39名)

室内での緑日を含めた「なつまつり」を開催しました。参加者からは、「涼しいなかで、楽しく遊べました」「部屋が分かれていたので、そのときの子どもの気分に合わせて楽しむことができました」といった感想をいただきました。(報告：岩本沙耶佳・北川 恵)

**第16期 親子がホッとつながるグループ2025**

実施日：2025年10月9日(木)～11月27日(木) (全8回) 10：00～11：30  
実施者：北川 恵、岩本沙耶佳、学生8名、託児担当者2名  
参加者：8名(親4名、子ども4名)

今年度もアメリカで開発された親子関係支援、「安心感の輪」子育てプログラムを実施しました。子どもに安心感を与える関わりについて、映像資料を見ながら、

ファンリテーターと話し合います。参加者からは、「子どもに対する関わりが変まりました」「子どもや自分のことを客観的に見る機会になりました」などの感想を寄せていただきました。来年度のグループは、2026年10月8日～11月26日に開催予定です。参加者募集を年度初めに行いますので、ぜひ参加・お問い合わせください。(報告：北川 恵・岩本沙耶佳)

**ライフプラン教育シンポジウム**  
「大学におけるライフプラン教育を考える」



実施日：2025年6月7日(土) 13：00～16：00  
基調講演：荻野佳代子 (神奈川大学人間科学部教授)  
実践報告：小山茂喜 (信州大学教職支援センター特任教授)  
西尾 新 (甲南女子大学人間科学部教授)  
森 茂起 (人間科学研究所客員研究員・名誉教授)  
野崎優樹 (文学部准教授)

参加者：5名(うち学生2名)  
「公開シンポジウム 大学におけるライフプラン教育を考える」は、甲南大学で行ってきた次世代育成研究とその成果としてのライフプラン教育の経験を踏まえ、神奈川大学、信州大学、甲南女子大学で同様の教育を実践してこられた先生方が一堂に会し、それぞれの経験を報告し、今後の展開を考えるものでした。大学における極めて重要な教育実践であること、継続しさらに展開するためには種々の制度を活用する、地域と連携するなど、さまざまな工夫が必要であることを確認しました。発表に含まれた学生の声からは、それぞれの実践の成果である学生の成長が窺われ、活発な討論が交わされました。

(報告：森 茂起)

**甲南アトリエ**  
第16回親子孫子で楽しむアート  
「偶然を活かす楽しみ～マーブリング」



実施日：2025年12月6日(土) 10：00～12：30  
講師：椋田三佳 (美術家)  
実施者：内藤あかね  
参加者：16名(一般9名、小学生6名、学生1名)

12月6日(土)の午前中10号館において、計16名の参加者とアート・ワークショップを行いました。家族連れから単独参加の学生まで幅広い顔ぶれで、和気あいあいとした雰囲気の中、時にはお互い助け合ったり、譲り合ったりしながら制作に励みました。今回、講師の椋田三佳さんにご指導いただいたのは、「墨流し＝マーブリング」です。墨流しは東洋由来で主に墨を使うのに対し、マーブリングはトルコや欧州の由来でカラフルな染料を使うと聞きますが、水面にできた模様を紙や布に転写するという技法は共通しています。このワークショップでは糊を溶かして粘度を上げた水にインク(染料)を落とし、広がり方や色のコンビネーションを楽しんだり、広がったインクに竹串や櫛で模様をつけたりして、それを最初は小さい紙に写し、そして画材の扱いに慣れてきたら、タオルハンカチ、大判のスクーフとだんだん大物に写す段取りで制作を進めました。紙と布では模様の染まり方や発色が違うので、最後のシェアリングの時に皆さんのお気に入り作品を聞くと、和紙にくっつきりと模様ที่写った作品を挙げている人もいれば、淡い色合いでマーブル模様が広がった作品を選んでいる人もいました。アート制作にはめったに携わることのない大人の方からも、色の組み合わせや混ざり具合、染める素材の違いで出来栄が変わってくることが体験的にわかって、面白いと感じられたという感想がありました。

今回の制作で面白かった点は、面積の広いスクーフを染める際に、家族やグループが協力して1枚のスクーフの四隅を持ち、水面にスクーフを下ろして模様を写し、引き上げるという共同作業のプロセスがあったことです。この作業は、ある程度勢いが要り、同時に緊張感も伴うものでしたが、家族で声を掛け合い、子どもたちは大人の言葉を聞きながら、どの部分を写すか、どのタイミングで布を引き上げるか、考えながら頑張っていました。

共同作業と言えば、今回のワークショップでは、色が混ざり過ぎて染に使えなくなった水を捨てて、新しい水に入れ替えるという作業がありました。この点でもスタッフに交じて参加者の方々がフットワークよく水汲みに動いてくださる場面があり、大変有難かったです。アート制作は体を全体的に使うプロセスであり、素敵な作品が生まれる工程には、こうした地味な作業もあることを知っていただく機会になったかもしれません。アートを介してコミュニケーションをとりながら、創作プロセスを楽しむというワークショップの主旨が参加者の方との協同作業で達成されたと感じる1日でした。(報告：内藤あかね)



**大阪・関西万博 上映&トークイベント**  
アート・ドキュメンタリー映画  
『EXPO'70 前衛の記憶～アコを探して』



実施日：2025年  
7月19日(土)・21日(祝) 映画上映会  
7月20日(日) 映画上映会&トークイベント  
参加者：7月19日(土) 午前の部：329名、午後の部：158名  
7月20日(日) 723名、学生10名  
7月21日(祝) 午前の部：308名、午後の部：161名  
※参加者数は、兵庫県ゾーンへの参加者です。

EXPO2025 (大阪・関西万博／夢洲) の、関西パビリオン、兵庫県ゾーン (メインホール) にて、7月19日から21日に、KHS製作のアート・ドキュメンタリー映画『EXPO'70 前衛の記憶～アコを探して』と、その製作過程から生まれた「横尾忠則 万博を語る」の上映とトークイベントを開催しました。これは、ひょうごエキスポWeek、EXPO'70-Daysの催しで、参加人数は総数1,679名でした。トークイベントには、寺嶋真理監督、川田都樹子教授のほか出演学生4名と、万博マニアの白井達郎氏、客員研究員の友田義一教授、石川路子教授にも順次登壇していただき、会場は終始熱気に包まれ、大きな拍手で歓迎していただけました。(報告：川田都樹子)

**甲南大学 オープンキャンパス**  
「アコを探して」映画上映会

実施日：2025年8月2日(土)・3日(日) 11：20～12：20／14：20～15：20  
参加者：49名(うち学生：28名)

7月のEXPO2025への参加には、パビリオン入場予約が必要で、それも希望者多数のため抽選となり、参加できなかったとの多くの声をうけ、「万博凱旋上映会／オープンキャンパス協賛企画」として、予約不要・参加費無料で、「アコを探して」の上映会を開催しました。万博で見逃したという方々の他、オープンキャンパスに参加中の受験生と親御さん、近隣にお住まいの方や、また甲南大学在学生の参加もあって、様々な年代の皆さんと上映後に意見を交換していただけができ、とても良い機会となりました。(報告：川田都樹子)

**ネットワークキャンパス東京**  
「アコを探して」映画上映会&トークイベント

実施日：2025年10月16日(木) 14：00～16：30  
参加者：47名

甲南大学ネットワークキャンパス東京にて、映画『EXPO'70 前衛の記憶～アコを探して』と「横尾忠則 万博を語る」の上映会およびトークショーを開催しました。ネットワークキャンパス東京スタッフによる「1970年に関する展示会」も開催され、当時の熱気や時代精神を知ることができる場となりました。トークショーで、川田教授からはEXPO'70の基本理念や当時の時代背景について、寺嶋監督からは横尾忠則氏や岡本太郎氏などの芸術家たちについての説明があり、終始和やかな雰囲気で行われました。(報告：川田都樹子)

**第3回 甲南映画祭、「万博ミニ特集」：**  
「アコを探して」映画上映会&トークイベント

実施日：2025年12月9日(火) 甲南大学 岡本キャンパス 12：20～14：30  
参加者：79名(うち学生：61名)  
実施日：2025年12月10日(水) FRAME in VOX (京都) 18：00～20：00  
参加者：21名(うち学生：1名)

文学部主催の第3回甲南映画祭の中で「万博ミニ特集」が生まれ、12月9日には「アコを探して」の本編(2024年)と新編(2025年/反博バージョン)の上映と、



寺嶋監督と川田教授のトークショーが開催されました。映画に出演した学生や、タレント(ダンサー・歌手)、甲南大OB、そして映画祭の教授陣も登壇くださり大いに盛り上がりしました。

12月10日は、出演者でもある美術評論家の室井絵里氏の企画により、京都(河原町三条)のFrame in VOXにて「アコを探して」と「横尾忠則 万博を語る」の上映会と、室井氏・寺嶋監督・川田教授の鼎談によるトークイベントが開催されました。狭い会場が満杯になる盛況ぶり、寺嶋監督・川田教授のかつての勤務校でもある京都芸術大学(元京都芸術短期大学)ゆかりの方々の来場もあり大賑わいでした。(報告：川田都樹子)

**阪神・淡路大震災30年シンポジウム**  
「防災文化の形成における大学の役割」  
— 「常二備へヨ」を継承するために—



1995年(平成7年)に発生した阪神・淡路大震災、その犠牲者は6,400人を超え、全半壊の家屋が約25万棟に達しました。甲南学園も大学院生1名、大学生15名、高校生1名、中学生1名と同窓生合わせて37名もの尊い命を失い、校舎の半数が全壊しました。

あの震災から30年、この節目の年に改めて、大学として、いま何が出来るのか、何を為すべきかを考えるシンポジウムを開催しました。復旧ではなく復興を目指すこと。街とコミュニティーと市民の生活、そして個人個人の心の健康をも復興すべく、地域とともにある甲南大学が、この30年に何をしてきたか、またこれから何をなすべきかが語られました。

参加者は165名(うち学生132名)でしたが、聴衆は皆、終始真剣な表情で講師の先生方の話しに耳を傾け、貴重な学びと気づきを深めることができたシンポジウムでした。未災者(震災を経験していない世代)に何を継承していくべきなのか、彼らが「自分ごと」として防災・減災の意識を高めるにはどうすれば良いのか。最後のパネルディスカッションでは、この最重要課題を皆で考察し、意見を共有し合うことができました。

また、シンポジウム会場のすぐ外にある「甲南大学ギャルリー・パンセ」では、震災を知らない学生たちが親世代から震災の記憶を継承するために行ったアンケート調査のポスター発表と、甲南学園の被災と復興の記録写真の展示が同時開催され、来場者はそれらも合わせて観覧することができました。



なお、本シンポジウムの全記録は、2026年度の人間科学研究所紀要『心の危機と臨床の知』vol.28 (2027年3月発行)に掲載予定です。(報告：川田都樹子)



実施日：2025年11月29日(土) 13：00～17：30  
参加者：165名(一般33名、学生129名、リカレント生3名)

**【基調講演】**  
阪本真由美 (兵庫県立大学 大学院減災復興政策研究科 教授)  
「防災文化の形成に向けて—阪神・淡路大震災の経験—」  
**【個別講演】**  
高石恭子 (文学部教授／学生相談室専任カウンセラー)  
「地域の心のケアの拠点を目指して」  
大澤香織 (文学部教授)  
「災害から心を守る【備え】のために：大学教育の役割と意義」  
久保はるか (全学共通教育センター教授)  
「地域防災・被災地支援に大学が関わる意義」  
岡村こず恵 (全学共通教育センター特任准教授)  
橋本育明 (文学部法学科3年生／地域連携センター学生コーディネーター【なんティア】代表)  
御手洗由璃菜 (法学部法学科3年生／地域連携センター学生コーディネーター【なんティア】副代表)

「災害ボランティア活動の記憶に向き合うということ：阪神・淡路大震災30年を契機として」  
**【パネルディスカッション】**コメンテーター・司会進行  
諏訪清二 (兵庫県立大学客員教授／防災教育学会会長／甲南大学非常勤講師)  
総合司会：川田都樹子 (文学部教授／人間科学研究所所長)



実施日：2025年11月21日(金)～12月5日(金)

**【アンケート調査ポスター発表】**  
監修：福井義一 (文学部教授)  
「震災30年特別授業「トラウマ学」—親から子へ、震災の記憶を継承する—」  
**【写真展】**  
監修：川田都樹子 (文学部教授／人間科学研究所所長)  
「甲南大学、阪神淡路大震災 被災と復興の写真展」